

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント コミュニティ(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	令和3年11月14日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会がなかなか取れない中、現在の機能状態を維持できるか、不安なく過ごして頂けるか、レクリエーションを通じて日中の活動時間を維持できるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&liyosyoCd=2690800012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東側には東福寺をはじめ、観光名所を多く望む場所に位置し、1階にデイサービスを併設した、2階フロアに2ユニットを擁するグループホームです。2007年に開設し、開設当初からのベテラン職員もおり、地域密着型サービスのあるべき姿を実践している事業所です。地域との関りも深く地域行事や事業所行事での交流も行ってきましたが、コロナ禍の影響により、現在は自粛しているところ。食事は3食手作りで、入居者と相談しながら当日の献立を決めるなど、家庭的な雰囲気になっています。また、食事やおやつ希望を聞き、お寿司・カップラーメン・アップルパイ・手作りケーキなど、様々な形で食を楽しめるよう工夫しています。デイサービスとグループホームを統括するセンター長やベテラン職員の協力を得て、管理者は、夜勤をはじめ現場に入ることが多く、現場職員からの信頼を得ています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年12月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には会社理念を唱和し、共有と確認をしている。理念になっている「しあわせ」にむけ利用者様を地域社会の一員として孤立しないで生活して頂けるようスタッフ一同努めている。	法人理念に加え、数年ごとに状況に応じて作成する事業所理念を掲げています。朝礼時に法人理念を唱和し、職員への理念周知を行っていますが、事業所理念については、掲示するに留まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域との繋がりを持っている。地藏盆・敬老会など地域行事にも参加している。地域の古紙回収にも協力している。地域の方々とは出会った際には挨拶を交わしている。(現在コロナ感染予防のため参加せず。)	町内会に加入し、回覧板等で相互にコミュニケーションを図っています。コロナ禍以前は、町内の清掃活動や古紙回収には職員が参加するようになっていました。事業所や地域の行事が中止になっていることから、現在は地域との関りが少なくなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ積極的に参加している。また事業所主催の秋祭りには地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。今はコロナ感染予防の為、地域との交流は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出されたご意見を職員一同把握・共有してサービスの質の向上に努めている。現在コロナ感染予防の為、会議は開かず、書面での配布とさせて頂いている。	コロナ感染予防対策の観点から、運営推進会議を中止にしており、「運営状況報告書」を作成し関係者へ配布していました。11月から通常の運営推進会議を再開し、地域包括・社協職員・家族の参加がありました。	運営推進会議前に、参加者や家族に対して、事前の意見照会を行うことで、議題の充実や質疑応答の活性化を図ることができると思われます。ご検討ください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を毎回区役所に届けている	運営推進会議の議事録は、コロナ禍前には役所の窓口へ出向き、手渡しを行っていましたが、現在は郵送での提出となっています。役所や地域包括からの連絡会・地域ケア会議開催の案内がグループホームに届いていないことに課題が残ります。	地域ケア会議や事業者連絡会等の案内は来ていると思われませんが、グループホームへの情報の流通に課題があると思われれます。あくまでも一つの事業所として、役所や地域包括からの案内等を把握・管理できる仕組みが必要です。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、会議の中で勉強会を実施して、理解を深めている。センターの前面道路は交通量が多く、危険が多いため玄関の施錠は実施しているが、外気浴や散歩等を通して、拘束感のないよう努めている。	身体拘束防止委員会は毎月開催され、年2回の研修も実施されていることが確認できました。研修参加者及び伝達研修参加者は、研修報告書を提出することで、研修内容の理解を深めています。2階フロアに2ユニットあることから、ユニット間の移動も自由に行き来できますが、玄関については安全面への配慮から、施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を実施している。入浴時や更衣時に身体状態の確認を行い、日々注意している。声掛け等についても職員同士注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の際に勉強会を実施して理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には原則2名体制で対応し、十分な時間を取って説明し、質問等に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会、ご面会時に家族からのご意見・ご要望をお聞きする機会をもち、サービス向上に努めている。また玄関先にはご意見箱を設置している。	年始に、サービスの内容等についての満足度を調査する目的での家族アンケートを採り、家族及び職員へ結果をフィードバックしています。また運営推進会議や、面会等の日常的なコミュニケーションの中で意見を聴き取り、アンケート結果と併せて、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・グループホーム会議時には、センター長や管理者と直接話ができるような雰囲気づくりを心掛けている。定期的な面談も行っている。日常的にコミュニケーションを取るよう努めているが、まだ十分とはいえない。	毎月のフロア会議(コロナ禍により、2ヶ月に一度に減らしている)や、日中の業務の中で、職員意見を聴き取るようにしています。また人事考課面談では、センター長による面談もあり、職員の意見や要望を聞く機会にもなっています。食事や行事では、職員意見が多く採用されていることが、職員ヒアリングでも確認できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査を行い評価している。スタッフにゆとりがなく、日々の業務に追われているのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはトレーナー制度を設けている。研修への参加や毎月勉強会を行い、サービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流を図り、系列の他センターへ行く機会などを通して、サービス向上を図って、切磋琢磨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。ご入居後も常にご利用者様の不安を傾聴し、安心して頂けるよう、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、ご家族様よりお困り事・ご不安な事等お聞きし対応している。ご入居後も面会時に日常の様子を報告し、ご要望もお伺いし、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様や、ご家族様の意向を把握し、できる限りご協力できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いして下さっている。ともに協力しながら、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどにご家族様をお誘いし、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。ご利用者様の情報を共有し、常にご利用者様と共に支えあう関係を築いている。現在コロナ感染予防の為、家族様のイベント参加は中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人・ご親類の方も御面会に駆られている。ご家族様と自宅に帰られたり、お墓参りや外食にも出かけられている。現在コロナ感染予防の為、面会、不要不急な外出は控えて頂いている。	コロナ感染予防対策の観点から、外出や面会を控えている中、玄関先での友人とのガラス越し面会や、家族とのオンライン面会により、関係が途切れないよう支援しています。最近では車外に出ないドライブ外出や敷地内散歩、別室での15分面会も始めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置等配慮し、日常生活の中で自然と共に関わり支えあっていたただけている。孤立しないよう配慮もしている。ご利用者様同士でレクリエーションをお誘いしたり、共同作業も充実している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でお話する機会や、ご近所の方は、施設近くでお話する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向を伺い把握し、意思決定を尊重して頂けるように努めている。ご希望も取り入れるように努めている。	職員が聴き取ったことは、タブレットから介護ソフトの記録へ入力しており、申し送りノートと併せて、情報の共有ができるようにしています。聴き取った入居者の意向などは、職員のスキルにより差はあるものの、サービスに活かせるよう努めています。	入居者一人ひとりの生活歴や趣味嗜好など、日頃の関りから得られる情報は、ケアの質を高める貴重な情報になります。センター方式(C-1-2)等の書式を活用するなど、情報の集約方法について工夫されてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の把握に努めている。申し送りノートや介護支援記録を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・アセスメントは定期的を実施している。モニタリングは毎月実施。ご本人様やご家族様のご希望もお聞きし、ケアプランを作成している。	短期目標の期間(6ヵ月)に合わせて、アセスメント及び介護計画の見直しを行っています。モニタリングは3ヶ月毎に「モニタリング実践記録」を計画作成担当者が作成、計画の実践状況を評価し、計画の見直しに活かしています。介護計画のニーズには採番がされ、モニタリングの中で適切に評価されていることが確認できました。またサービス担当者会議には、必要に応じて医師・看護師も参加し、見直しの際の意見をいただいています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し、職員間での情報共有を図り、ケアプラン見直し繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院付添等。その時のニーズに応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的には内科や歯科の往診を受けられている。医師や看護師相談することで、関係が築けている。	入居前のかかりつけ医も、往診が可能であれば継続していただけるようにしています。定期受診や専門医への受診は家族協力が基本ではありますが、必要に応じて職員が付き添うこともあります。協力医による往診は各ユニット月2回ずつあり、訪問歯科も契約者のみではありますが、義歯調整・口腔ケアなど、健康管理に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中に体調の変化等あれば、DSの看護師にみて頂いたり指示を仰いだり連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個人ファイルを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて、情報交換にも努めている。往診時等に相談や助言も頂き、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、個別に対応している。往診時に、ご家族様と医師がお話しされる場を持って頂いている。ご家族様のご意向により、他施設への入所申し込み等も行っている。	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を作成し、入居時に同意を得ています。看取り期に入られる際には、その都度対応に関する意向確認を行っています。ここ数年看取りの実績はありませんが、本人・家族の要望に応じて、看取りは行うことになっています。	現在、看取り経験のない職員が多い中、看取りへの不安を口にされる職員もおられること。看取りケアのスキルアップや看取りことへの精神的負担軽減のためにも、年に一度は医師・看護師による、看取り研修を計画的に行われることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を実施。利用者様も参加されている。全職員は参加できていないが、訓練記録にて伝達勉強会を行っている。災害時には地域の方にもご協力いただけるよう自治会にて話の場を持っている。	消防署協力のもと、年2回の消防訓練を実施(内1回は夜間想定)しています。訓練の際には回覧板で地域への情報発信もしていますが、今のところ参加はありません。浸水等の被害想定はないため、現在のところ自然災害を想定した訓練は行っていません。有事の際の緊急連絡網の実効性の確認は実施されています。災害備蓄品として、飲食品が入居者+職員の3日間分に加え、懐中電灯、カセットコンロなどを備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには配慮している。各々で理解しているが、少し強い口調等不適切な言葉掛けをしてしまう時がある。	年間研修計画の「接遇マナー研修」の中で、プライバシーに配慮した声掛けの研修を組み込んでいます。不適切な声掛けになってしまうこともあるようですが、職員同士が注意しあったり、管理者から指導を行ったりすることで、意識を高めるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ、ご希望や思いをお伺いし、自己決定して頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、ご本人のご希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選ばれたり、お出かけ前にはオシャレにアクセサリを身につけたり、化粧をされる方もいる。月一回の訪問理美容も、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・下膳・食器拭き等、お一人お一人ができることをお手伝いして下さっている。職員はご利用者様と一緒に食事をし、時に会話しながら楽しい食事の場になるよう努めている。	本社から送られる献立表を参考に、各ユニットがそれぞれ食材の調達を行い、3食手作りの食事を提供しています。その日の冷蔵庫にある物から、その日の献立を決めることもあります。誕生日や季節の行事・食事レクなど、入居者の希望を聞きながら、食事やおやつと一緒に作るなど、家庭的な雰囲気になっています。食器拭きや下膳など、できることには役割を持ってもらえるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し、水分量の少ない方など配慮している。野菜を多く使用するよう心掛け、健康管理にも繋げられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。お声かけや一部介助など、お一人お一人にあった支援を行っている。義歯は夜間に、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心掛け、チェック表を活用し、トイレ誘導の必要な方には、定期的な声掛け誘導を行っている。	原則、おむつの使用は行わないことを旨とし、やむを得ない状態時以外は、紙パンツやパッドでの対応をしています。夜間にトイレ誘導をしたり、吸収量の多いパッドを使うなど、一人ひとりの状態や意向を見ながら、臨機応変な対応を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ等を用いた飲み物をお出しし、便秘予防に努めている。食事野菜多めになるよう努めている。身体を動かす機会を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴して頂けるよう努め、ご本人のご希望やタイミングに沿えるよう配慮しているが、職員の都合になることがある。	午前中の中入浴を基本としていますが、希望を聞きながら、午後での対応も行っています。週3回の入浴ができるよう努め、ゆず湯や乾燥した果物の皮(みかんなど)を入れ、少しでも入浴を楽しめるよう工夫しています。個浴で対応できない場合は、1階のデイサービスにあるチェアインバスでの対応もできます。デイサービスには中庭の見える大浴槽もあり、正月などのデイの休日には、人員に余裕がある時は温泉気分に入浴を楽しめるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて昼寝をされたり、体調に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルにて確認。薬変更時はご家族様に報告、申し送りノートを活用し情報を共有している。服薬時は服薬表をチェック、職員間でもダブルチェックし確認している。服薬後の症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や生け花等取り組んで頂く機械を持っている。お誕生日会や季節の行事も実施し楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。家事もお手伝いして下さり、役割を持って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、外食レク、外気浴等実施している。近所の喫茶店へも出かけている。ご家族様と食事に行かれたり、お墓参りに行かれることもある。現在はコロナ感染予防のため外出を控えている。	様々な外出機会がコロナ禍により中止になっています。そのような中でも、ベランダでの洗濯物干し、敷地内駐車場での外気浴・日光浴など、少しでも外気に触れ、季節を感じられるよう支援しています。現在は、車外に出ないドライブ外出なども始めており、気分転換になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はセンターで管理している。外食レクやスーパーで買い物した時等に、代金を支払って頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ご希望時は、おかけしている・手紙が届いた際は、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整し、室温にも配慮している。トイレには分かりやすい目印を付けている。イベント時には飾り付けも行っている。廊下には作品展示や行事の写真等を掲載している。	リビングや廊下には、レクリエーションで作成した季節の作品を飾り付けたり、日頃の様子の写真を飾ったりしています。音楽の好きな方が多いため、懐メロや昭和歌謡曲をかけ、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でお1人になれる空間はないが、気の合う方と座って頂けるよう座席を配慮している。ソファもあり、好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、写真等飾られたり、なじみの家具をお持ちになられている方もいる。TVも置かれ、好きな番組を見て過ごされている。	すべての居室には腰高の棚が設置されており、持ち込まれた馴染みの物や写真、自分で作成した作品など、思い思いに飾り付けをしています。座椅子やソファ・仏壇・詩集セットなどを持ち込まれている方もおり、個性的な設えになっています。またベッドの配置も固定せず、身体状況を見ながら、一人ひとりの好みに合った空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーであり、杖や車いすを使用し、各自の身体機能を活かし、過ごされている。居室入口には、各自の名前を確認して頂けるよう担っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマット リタイアメント コミュニティ(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(楓)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	令和3年11月14日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出の機会がなかなか取れない中、現在の機能状態を維持できるか、不安なく過ごして頂けるか、レクリエーションを通じて日中の活動時間を維持できるように努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligvsysCd=2690800012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ユニット「桜」に同じ</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年12月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には会社理念を唱和し、共有と確認をしている。理念になっている「しあわせ」にむけ利用者様を地域社会の一員として孤立しないで生活して頂けるようスタッフ一同努めている。	ユニット「桜」に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域との繋がりを持っている。地藏盆・敬老会など地域行事にも参加している。地域の古紙回収にも協力している。地域の方々と出会った際には挨拶を交わしている。(現在コロナ感染予防のため参加せず。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ積極的に参加している。また事業所主催の秋祭りには地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。今はコロナ感染予防の為、地域との交流は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出されたご意見を職員一同把握・共有してサービスの質の向上に努めている。現在コロナ感染予防の為、会議は開かず、書面での配布とさせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を毎回区役所に届けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、会議の中で勉強会を実施して、理解を深めている。センターの前面道路は交通量が多く、危険が多いため玄関の施錠は実施しているが、外気浴や散歩等を通して、拘束感のないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を実施している。入浴時や更衣時に身体状態の確認を行い、日々注意している。声掛け等についても職員同士注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の際に勉強会を実施して理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には原則2名体制で対応し、十分な時間を取って説明し、質問等に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会、ご面会時に家族からのご意見・ご要望をお聞きする機会をもち、サービス向上に努めている。また玄関先にはご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・グループホーム会議時には、センター長や管理者と直接話が出来るような雰囲気づくりを心掛けている。定期的な面談も行っている。日常的にコミュニケーションを取るよう努めているが、まだ十分とはいえない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査を行い評価している。スタッフにゆとりがなく、日々の業務に追われているのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはトレーナー制度を設けている。研修への参加や毎月勉強会を行い、サービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流を図り、系列の他センターへ行く機会などを通して、サービス向上を図って、切磋琢磨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。ご入居後も常にご利用者様の不安を傾聴し、安心して頂けるよう、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、ご家族様よりお困り事・ご不安な事等お聞きし対応している。ご入居後も面会時に日常の様子を報告し、ご要望もお伺いし、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様や、ご家族様の意向を把握し、できる限りご協力できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いして下さっている。ともに協力しながら、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどにご家族様をお誘いし、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。ご利用者様の情報を共有し、常にご利用者様と共に支えあう関係を築いている。現在コロナ感染予防の為、家族様のイベント参加は中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人・ご親類の方も御面会に駆られている。ご家族様と自宅に帰られたり、お墓参りや外食にも出かけられている。現在コロナ感染予防の為、面会、不要不急な外出は控えて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置等配慮し、日常生活の中で自然と共に関わり支えあっていただけいている。孤立しないよう配慮もしている。ご利用者様同士でレクリエーションをお誘いしたり、共同作業も充実している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でお話する機会や、ご近所の方は、施設近くでお話する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向を伺い把握し、意思決定を尊重して頂けるように努めている。ご希望も取り入れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の把握に努めている。申し送りノートや介護支援記録を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・アセスメントは定期的を実施している。モニタリングは毎月実施。ご本人様やご家族様のご希望もお聞きし、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し、職員間での情報共有を図り、ケアプラン見直し繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院付添等。その時のニーズに応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診を受けられている。医師や看護師相談することで、関係が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中に体調の変化等あれば、DSの看護師にみて頂いたり指示を仰いだり連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個人ファイルを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて、情報交換にも努めている。往診時等に相談や助言も頂き、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、個別に対応している。往診時に、ご家族様と医師がお話しされる場を持って頂いている。ご家族様のご意向により、他施設への入所申し込み等も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を実施。利用者様も参加されている。全職員は参加できていないが、訓練記録にて伝達勉強会を行っている。災害時には地域の方にもご協力いただけるよう自治会にて話の場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには配慮している。各々で理解しているが、少し強い口調等不適切な言葉掛けをしてしまう時がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ、ご希望や思いをお伺いし、自己決定して頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、ご本人のご希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選ばれたり、お出かけ前にはオシャレにアクセサリを身につけたり、化粧をされる方もいる。月一回の訪問理美容も、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・下膳・食器拭き等、お一人お一人ができることをお手伝いして下さっている。職員はご利用者様と一緒に食事をし、時に会話しながら楽しい食事の場になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し、水分量の少ない方など配慮している。野菜を多く使用するよう心掛け、健康管理にも繋げられるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。お声かけや一部介助など、お一人お一人にあった支援を行っている。義歯は夜間に、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心掛け、チェック表を活用し、トイレ誘導の必要な方には、定期的に声掛け誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ等を用いた飲み物をお出しし、便秘予防に努めている。食事野菜多めになるよう努めている。身体を動かす機会を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴して頂けるよう努め、ご本人のご希望やタイミングに沿えるよう配慮しているが、職員の都合になることがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて昼寝をされたり、体調に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルにて確認。薬変更時はご家族様に報告、申し送りノートを活用し情報を共有している。服薬時は服薬表をチェック、職員間でもダブルチェックし確認している。服薬後の症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や生け花等取り組んで頂く機械を持っている。お誕生日会や季節の行事も実施し楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。家事もお手伝いして下さり、役割を持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見、外食、外気浴等実施している。近所の喫茶店へも出かけている。ご家族様と食事に行かれたり、お墓参りに行かれることもある。現在はコロナ感染予防のため外出を控えて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はセンターで管理している。外食レクやスーパーで買い物した時等に、代金を支払って頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ご希望時は、おかけしている・手紙が届いた際は、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整し、室温にも配慮している。トイレには分かりやすい目印を付けている。イベント時には飾り付けも行っている。廊下には作品展示や行事の写真等を掲載している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でお1人になれる空間はないが、気の合う方と座って頂けるよう座席を配慮している。ソファもあり、好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、写真等飾られたり、なじみの家具をお持ちになられている方もいる。TVも置かれ、好きな番組を見て過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーであり、杖や車いすを使用し、各自の身体機能を活かし、過ごされている。居室入口には、各自の名前を確認して頂けるよう担っている。		